

第15回 日本社会福祉士学会 全国大会

～『みえ』てきた!!三重大会の概要～

大会まで残り3か月!

2007年、三重全国大会までいよいよあと3か月になりました。この間、全国大会三重県実行委員会の開催も5回を数え、着々と準備が進められています。三重県社会福祉士会全国大会実行委員会ならびに会員一人一人が一丸となって全国大会が成功に導かれるよう、これからも邁進していきます。

現時点で決定している三重全国大会の概要につきまして、掲載させて頂きます。全国の社会福祉士のみならず、明日の福祉が『みえ』る『三重』全国大会に、乞うご期待下さい。

大会テーマ『支援の新たな道くひと・まち・くらしを支える社会福祉士』

開催日: 2007年6月1日(金)～2日(土)

開催場所: 三重県志摩市(メイン会場:阿児アリーナ、サブ会場:伊勢志摩ロイヤルホテル、合歓の郷)

大会日程

- (1日目) 6月1日(金)
 - 阿児アリーナ
 - 12時30分:総会
 - 13時45分:開会式
 - 14時15分:講演「これから社会福祉士への期待」(仮題) 講師:厚生労働省 社会・援護局長(予定)
 - 15時15分:基調講演「支援の新たな道くひと・まち・くらしを支える社会福祉士」 講師:白澤政和氏(大阪市立大学大学院教授)
 - 16時30分:鼎談「わが国の社会保障・社会福祉の課題

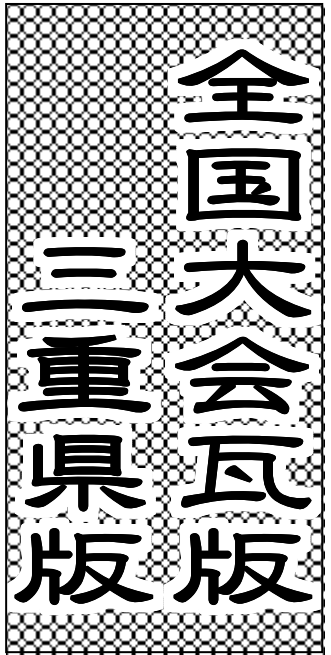
- (2日目) 6月2日(土)
 - 阿児アリーナ、伊勢志摩ロイヤルホテル、合歓の郷
 - 10時:日本社会福祉士学会分科会・海外研修等報告会(含IFS W報告)・三重特別分科会
 - 13時:流れ解散

と社会福祉士の使命(ミッシヨン)と権利擁護(アドボカシー)と地域エンパワメントをふまえて」

コーディネーター:北野誠一氏(東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科教授)

鼎談者:朝比奈ミカ氏(千葉県中核地域生活支援センター「がじゅまる」センター長・社会福祉士) 玉木幸則氏(自立生活センター「メインストリーム協会」副代表・社会福祉士)(50音順)

- 18時10分:総会結果報告
- 18時25分:引き継ぎ式
- 19時:懇親会



三重県社会福祉士会事務局
発行: 広報委員会
〒514-0003
三重県津市桜橋2丁目 131
三重県社会福祉協議会内
Tel 059-227-5145
Fax 059-227-6618

第3号



イメージキャラクター『パールちゃん』

全国大会に舞う華 猛特訓中!!!

三重大会に参加してくださる会員の皆様には是非見ていただきたいと、有志の会員が大会に向けてフラメンコを練習しています。

練習を始めて半年、フラメンコの基礎を習得し、本番に向けて舞い続けています。

取材した日は今年最初の練習の日。休みがながったためか、始めはいささかぎこちない動きでしたが、徐々に滑らかな動きへと変わって来ました。

本番まで残り三か月あまり。一層可憐なフラメンコになることでしょう。フラメンコは懇親会にて披露されます。乞うご期待を!!



(みなさん猛特訓中)

最新情報は三重県社会福祉士会ホームページをご覧ください。

<http://www.5.famille.ne.jp/~mie-csw>

大会テーマソングとPRビデオが見聞できます。今すぐアクセスを!!

三重全国大会が開催される志摩市へのアクセスとしては、近鉄電車の利用が大変便利です。

JRでもお越しいたことは可能ですが、鳥羽駅で乗換えが必要となりますので、接続時間を確認ください。

三重県情報

みえちやう

三重県

ちよつとちよつと

紀伊半島の東部に位置する三重県。古代から歴史に登場しますが、超有名になることが少なかったようです・・・

ちよつと地味な三重県のちよつと雑学を紹介しましょう。

Y&S 三重県の風土

三重県は南北に長い県です。

北部地方は、伊勢湾に面した伊勢平野が広がり、西側には鈴鹿山脈が南北に連なっています。冬、この山脈から強く冷たい風が吹いてきます。鈴鹿嵐(おろし)と呼ばれています。鈴鹿山脈にも多くの名山がありますが、特に御在所はカモシカが生息してことでも知られています。

伊勢志摩・東紀州地域は黒潮の影響もあり一年中温暖な気候です。一方、日本でも有数の多雨地域としても知られています。地元で「弁当を忘れても傘を忘れるな」という言葉があるほどです。またこの地域にしか自生しないシダ植物も多くあります。

伊賀地方は鈴鹿山脈の西に位置し、盆地で温暖の差が激しい地域です。奥深い山々が連なることと都に近いこと等から中世から近世にかけて、忍者が修行し活躍するのに最適な地域だったようです。

伊勢市に鎮座する観光地が約2000年前に倭姫命の叔母にあたる倭姫命がこの地に天照大神を祭る社と定めました。

三重のいいところ みたいどころ

その3 伊勢神宮の巻

律令国家が成立する白鳳・奈良時代から皇族の女

性

いいもの みいつけた

第3回 伊勢茶

伊勢茶は、栽培面積、荒茶生産量のいずれも静岡県、鹿児島県に次いで全国第3位で、ふかむし茶、煎茶、かぶせ茶などが年間約7,000t生産されています。

北は四日市方面から南は奥伊勢方面までたくさん茶畑を見ることができ、す。広大な茶畑は深緑のじゆうたんのようにです。



(伊勢茶畑)

茶畑がよく見られる扇風機のような風車のような霜害を防ぐ『防霜ファン』もたくさん見られます。伊勢の国で作られたお茶を是非お試しください。ペットボトルでも販売されています。

美味しいね

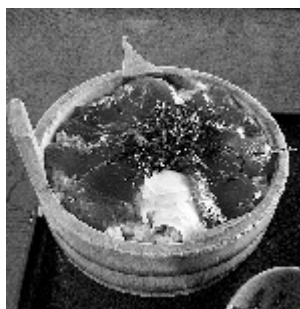
三重県③

こね寿司・めはり寿司

新鮮なカツオなどのお刺身を醤油漬けにして酢飯とまぜた昔、志摩の漁師が船の上で食べた料理です。各家により味付けが異なり、俗に言う「おふくろの味」です。

全国大会の懇親会の料理にも出てくるかもしれませぬ：乞うご期待を。最近、通信販売用のこね寿司も開発され、販売されています。

また、志摩地方を南



下った東紀州地方では、めはり寿司が知られています。大きな高菜の葉に飯を包み、俵状にした食べ物です。

古来より、熊野詣をする旅人たちの携帯食として、食されてきました。険しい山道が続く熊野街道では、保存の利く、持ちやすい、めはり寿司は非常に有効な食べ物だったに違いありません。(てこね寿司の例)

は、三河から発し伊勢神宮を目指したものです。

近代、鉄道は発展すると伊勢を目指して幾つもの鉄道が敷かれました。

伊勢神宮は外宮と内宮があります。天照大神を祀る内宮の門前町のおはらい町、おかげ横丁は当時を偲ばせる町並みは残っており、いつも観光客で賑わっています。

伊勢神宮は1300年前の持統天皇の頃より20年毎

に社殿などを建て替えま

す。平成25年に第62回式年遷宮が行われます。

これは8年前から準備が始められます。長野県から社殿などの木材が伊勢に運ばれます。御木曳(おきひき)と呼ばれる行事です。

今年も第二次の御木曳が5月、6月に予定されています。6月は1日(金)、2日(土)、3日(日)の予定です。

ちよつと全国大会の日程と重なっています。20年に一

度の伝統行事に触れてみてください。

日本の心のふるさと、伊勢神宮。全国大会に参加された後、足を運んでみてはいかがでしょう。



(↑御木曳)